

「努力のつぼ」

～ 「継続は力なり」「応援しよう」 ～

校長 本間 智英

先週23日(金)は、ご多用の中、学習参観、PTA総会、学級懇談会にお越しいただき、ありがとうございます。お子さんの頑張り、学級や学校の雰囲気はいかがでしたでしょうか。

PTA総会でもお話をさせていただいたように、これまで以上に「子どもの笑顔があふれる学校」を目指し、子どもと教職員、そして、保護者・地域の皆様と力を合わせて取り組んでまいります。今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

写 真

手の挙げ方が素晴らしい
2年生(23日学習参観)

さて、本日の全校朝会で「努力のつぼ」というお話をしました。これは、『朝日作文コンクール 子どもを変えた親の一言 作文25選』(1998年 明治図書)の中の作文です。よくつかわれるお話なので、聞いたことがある(読んだことがある)方もいらっしゃるかもしれませんが、紹介します(原文のひらがなを漢字に直しています)。

努力のつぼ

角野 愛(小学校1年)

「お母さん、努力のつぼの話、またして。」

「うん、いいよ。今度はなあに。」

「逆上がり。」

「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。随分大きいねえ。」

と言いながら、お母さんは椅子を引いて、私の前に座りました。そしてもう何回もしてくれた努力のつぼの話をまたゆっくりと始めました。それはこんな話です。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力のつぼをもらいます。

そのつぼはいろんな大きさがあって、人によって、時には大きいのやら小さいのやらいろいろあります。そしてそのつぼは、その人の目には見えないです。でもその人がつぼの中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」があふれる時、つぼの大きさが分かるというのです。だから休まずにつぼの中に努力を入れていけば、いつか必ずできる時がくるのです。

私はこの話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。その時は、横ばしごの練習をしている時でした。それから一輪車や、鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬。何でも頑張っている時お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。

くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きなつぼが見えてくるような気がします。そして私の「努力」がもう少しであふれそうに見えるのです。だからまた頑張る気持ちになれます。

お母さんの言うとおりの、今度の逆上がりのつぼは、随分大きいみたいです。逆上がりを始めてから、もう2回もこの話をしてもらいました。でも今度こそ、あと少しであふれそうな気がします。だから明日からまた頑張ろうと思います。お母さんは

「つぼが大きいととても大変だけど、中味がいっぱいあるから、あなたのためになるのよ。」と言ってくれるけど、今度神様にもらう時は、もう少し小さいつぼがいいなあと思います。